

法士会報

発行所

〒184-8584

東京都小金井市梶野町3-7-2

TEL・FAX (042) 387-6385

法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科同窓会

発行人 梅園輝彦

編集人 会報編集委員会

土木同窓会創立50周年記念大会に集まろう!!

法政大学土木同窓会会長 梅園輝彦



卒業生同士が“法士会”の呼び名で親しんできた法政大学工学部土木工学科同窓会は、麻布校舎時代の1959年（昭和34年）10月に発足し、本年秋に設立後50周年を迎えます。

半世紀に亘る法士会組織には卒業生5,350名が登録され、同窓会メンバーは世界各地で活躍し、会得した知識や経験を母校や友人、後輩に伝達し、法士会の歴史と校友の輪を作ってきました。こうした多くの卒業生に支えられてきた法士会では、創立50周年の記念事業として教室との共同による「地域への奉仕活動」と、法士会主催の「土木同窓会創立50周年記念大会」を企画しました。本紙では法士会新メンバーの紹介を行い、次に本年5月に無事終えることが出来た「市ヶ谷地域への奉仕活動」を報告し、続いて皆さんに是非出席いただきたい「50周年記念大会」について説明します。

○法士会新会員は「都市環境デザイン工学科」の卒業生

法士会の〔目的〕は、「本会は、会員相互の親睦を図り、会員と法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科（旧名称：工学部土木工学科）との関係を密接にし、その発展に寄与する事を目的とする」と会則第3条に記すように、大学との絆を最も重要視するものです。近年多くの大学で学部・学科の名称変更が行われていますが、法政大学では2004年4月より「土木工学科」は「都市環境デザイン工学科」と名称を変更し、更に工学部の大改組に順次取り組み、2007年4月より都市環境デザイン工学科（旧土木工学科）、建築学科、システムデザイン学科の3学科から構成される「デザイン工学部」が市ヶ谷田町校舎でスタートしました。2005年3月には都市環境デザイン工学科へと学科名称変更後初の卒業生が大学院や社会に巣立ち、今年の春2009年3月までに延べ570名の学生が都市環境デザイン工学科を卒業し、法士会組織の1割を占める卒業生数になりました。次代の法士会発展に寄与する事を期待します。

○市ヶ谷地域での奉仕活動(清掃活動)が無事終了

50周年記念事業の一つである「地域への奉仕活動」として、外濠周辺の清掃活動を都市環境デザイン工学科と共同で本年5月23日

(土)午前実施致しました。法士会メンバーの多くは小金井校舎で学び、市ヶ谷校舎とは縁遠いのですが、都市環境デザイン工学科が2年前より小金井校舎と市ヶ谷田町校舎との併用使用を始めたことを機に、同窓会として市ヶ谷地域との友好のため清掃活動を行いました。

市ヶ谷地域での清掃活動は企画から実施まで半年掛けて準備しました。吉田保副会長（日本工営(株)）、山口明副会長（東京都知事本局）が企画立案の中心となり、清掃活動の実施計画は野口博章理事（東電設計(株)）が中心となり行いました。この間、大学並びに学科との調整作業、および授業日外の奉仕活動への学生参加呼びかけと清掃備品の準備等々は、宮下清榮理事（都市環境デザイン工学科准教授）が担当しました。清掃日当日は晴天に恵まれ、OB・学生・教員の総勢64名が一同となり同時スタートした清掃活動は、役務分担・安心安全への配慮・後片付け等、土木技術者集団ならではの奉仕活動であったと感じています。

清掃後、市ヶ谷田町校舎地下食堂に移動し、学生との親睦を図りました。教室主任の満木泰郎教授、草深守人教授にも参加頂き、出席の全学生より一言ずつ自己紹介や清掃奉仕の感想を聞かせてもらいました。その後、官庁、コンサルタント、建設会社等について所属OBを輪にし、学生たちとの質疑が閉会まで続きました。

「土木同窓会創立50周年記念大会」のご案内

創立50周年の記念大会は、恩師や現役の先生方並びに同窓の仲間たちと再会し、出席者全員がしばしの時間を楽しく過ごしていただける祝賀会となるよう企画しています。

記念大会の会場に入れば、卒業1年生から50年生まで学生時代を想い出して頂くため、神宮球場で“ホオセイ!”をリードしている現役の応援団とチアガールが出席する予定です。また、学生時代から今日まで、六大学のハワイアンバンド競演（中高年の部）に出演のグループ（チーフ土木工学科卒）に、記念大会での演奏をお願いしています。

記念大会のご案内は、大会実行委員会より全員には届いていませんので、同窓の友人知人に是非声を掛けて下さい。また、奥様の同伴は大歓迎ですので記念大会実行委員会までご連絡下さい。

【問合せ先】 土木同窓会創立50周年記念大会実行委員会

法政大学工学部都市環境デザイン工学科事務局

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL：042-387-6114 FAX：042-387-6124

E-mail返信先：同上 前田重行研究室 s_maeda@hosei.ac.jp

日時：平成21年11月23日(月) 「勤労感謝の日」

12：00～14：30

場所：京王プラザホテル 本館5F

コンコード ボールルーム

〒160-8330 新宿区西新宿2-2-1（新宿駅西口から徒歩10分）

TEL：03-3344-0111

会費：8,000円（同伴者参加費不要）

活躍するOB・OG

コンクリート屋として思うこと

月の泉技術士事務所 渡邊弘子 (1987年卒)

学校を卒業して20年以上が経ちました。この間、様々な理由から転職する必要が生じ、現在は通算で四つ目と五つ目の仕事の二足のわらじを履いています。そこで、「活躍するOG」というタイトルにはそぐわない内容になりますが、就職遍歴の話をしたと思います。自分の行く末に不安を感じている後進のOGの皆さん、そしてこの時代、同じように悩んでいるかもしれないOBの皆さんの励みになれば幸いです。

私は土木工学科を卒業して、まず電力コンサルタント会社に入社しました。当時、女性を技術職で採用してくれる会社などなく、採用されただけで幸運でした。これはひとえに恩師、小林正凡先生のおかげです。ちなみに、私が今まで曲がりなりにも仕事を続けてこられたのは、いつもその時々に見えるキーパーソンに助けられてきたからです。コンサルタントの仕事は今思うと忙しいものですが、新入社員だけあって何をやっても新鮮で勉強になる時期でした。女性の土木屋はまだ珍しい時代で、直属の上司も先輩も私の扱いに悩んだことと思いますが、女性を理由に区別されることは全くなく、恵まれた環境で仕事することができました。ここでのスタートがなければ今の私はないはずで、心から感謝しています。失敗談はたくさんありますが、報告書に書かれた「研鑽」という字が読めず、「研鑽していない奴には読めないよ」と先輩に言われ、恥ずかしい思いをしたことを今でも覚えています。5年3ヶ月勤めましたが、一身上の都合により後ろ髪を引かれる思いで退職しました。退職する時は「次の就職は難しいだろうなあ」と暗雲立ち込める思いでした。

その後、4ヶ月の無職期間を経て、建設会社に中途入社することができました。ちょうど技術研究所を拡張しているところで、「仕事していないなら入社試験を受けてみないか」と誘ってくださる方がいたからです。幸運にも人員補強の波に乗って採用されました。研究者として遅いスタートでしたが、毎日、自分でコンクリートを練ることのできる環境に恵まれ、楽しくて仕方ありませんでした。ただ、1年に1度ある社内研修には困り果てました。実は、建設会社に入るからには現場勤務に憧れていたのですが、入社当時既に28歳の私は、「そんな年食った素人なんて使えない」と現場から却下されていました。それが如何に正しい判断であるかを思い知らされたのが社内研修の場でした。社内研修は社内資格（経験年数、年齢、取得資格等）に応じて行われる研修ですが、建設会社ですので「現場をいかにうまく運営していくか」を共同で学ぶ場で、数人で構成する同じ班の人たちはほとんどが新人から現場勤務している人たちです。「土留めの計算できる?」「足場の数量拾える?」「クリティカルパス計算できる?」「おカネ積める?」もちろん、と言うのも図々しいのですが、全てできません。研修センターに泊まり込みの1週間はとてども長く、最終日である金曜日の昼食のカレーライスを見ると心底ほっとしたことを覚えています。約7年勤め、こちらも一身上の都合により後ろ髪を引かれる思いで退職しました。この時も、「次の就職はどうか」と悩みながらの退職でした。

その後、同じように5ヶ月の無職期間を経た後、公的機関の研究員の任期付き研究員として採用されることができました。ちょうど新しいプロジェクトが立ち上がったところで、そのプロジェクトを遂行するための専門研究員の募集に「応募しないか」と声をかけてくださる方がいたからです。たぶん他に応募がなかったのでしょうか、幸運にも採用されました。発注者側の立場になるのは初めてでやりにくいような気がしましたが、この時既に35歳で

あり、文字通り肚も太くなっていました。海生生物と共存するコンクリートについて研究するため、現地実験場の一つをわざわざ遠い熊本県の天草港に設け、年2回行く現場調査を楽しむにしていました。ただ、船に弱い私が港湾関係の研究業務に就くというのは無謀で、他の業務でも酔い止めの薬は手放せず、天草へ行くのも30分の航行が辛いので3時間のバス道を選んでいました。生物専門の研究者や港湾施設の監理者、地元の漁業関係者など違う分野の人たちと知り合う機会にも恵まれた楽しい3年間でした。

遍歴は続きますが、次が現職です。任期付き研究員の任期が切れるのと同時に、仙台へ転居しました。ちょうど家人が転職することになり、その転職先が仙台だったからです。出張で数回行ったことのある杜の都仙台。豊かな緑、広い空、涼しい風、旨い酒に旨い米、あの素敵な街に住めるなんて何て幸運だろうと思いました。そして、失業保険をあてに遊び暮らすこと6ヶ月、だんだん無職の立場にも凶太くなり、無職期間も長くなりました。しかし、さすがに家人から「そろそろ働いたら?」と促され、それもそうだと秋風の立つある日、自宅で技術士事務所を開きました。と言っても、税務署に行って「事務所開きます」と言っただけで、本心を言えばアリバイ工作に近いものでした。当然、所長一人、技術屋一人、営業屋一人、事務屋一人、掃除婦一人、もちろん全部私一人の超零細企業です。それでも口コミで開業を知った知人から仕事をいただき、細々と続けていくうちに本当に仕事に来るようになりました。大プロジェクトに関わることなど到底ありませんが、「地元の役に立つ草の根技術者になろう」と思い、今は東北大陸をゆるゆると（精力的にはない）回っています。

そんなさなか、地元の大学の非常勤講師も引き受けることになりました。ちょうどコンクリートが専門の先生が海外留学されることになり、「学生実験の面倒を見る人手が足りないので2年間だけ来ないか」と誘ってくださる方がいたからです。初めは学生との距離の取り方に戸惑いましたが、この時ちょうど40歳、学生の母と思えば良いのだと気付くと遠慮なく叱れるようになりました。「2年間だけ」の約束が毎年更新されて早5年になります。いつまで続くかわかりませんが、続いている限りはコンクリートの楽しさ、ひいては土木の楽しさ、大切さを学生に伝えていきたいと思っています。

そんなこんなで次々と職の変わってきた20数年でしたが、いつも就職する時は「この会社に定年までいよう」と思って就職しています。新卒で入ったコンサルタント会社では、入社1年目の春から財形貯蓄を始めて周囲に驚かれましたし、中途入社した建設会社でも毎月最大限の社内株を買って周囲にあきられました。どちらも「長く勤めるから、いつか家を買おう、いつか役員になろう」と思っていたことです。任期付き研究員の時も任期を延長するよう画策しましたが、仙台に転居することが決まって断念しました。いつも自分で思うようには事の運ばなかった20数年です。それでも、気づけばコンクリート屋として今も働いています。そしてもう一つ気づいたことは、私の願いは「生涯一コンクリート屋」であればそれで良かったのだということです。

これを読んでいる皆さんの中にも、「こんなはずじゃなかった」「この先どうしよう」と悩んでいる方がいるかも知れません。でも「後悔役に立たず」と言います（言いませんが）。気づいてみると、何回転職しようとも私の根っこはコンクリートでした。悩んでいる皆さんも自分の根っこに気づきさえすれば、地上部分がときどき萎れることがあっても、また伸びていくことができるのではないのでしょうか。OG(OB)の皆さん、疲れていたらメールをください。他愛ない話でもしましょう。(hiw@mamni.ne.jp)



美しくふさわしいまちづくり

高見公雄 教授

【都市デザイン研究室開設】

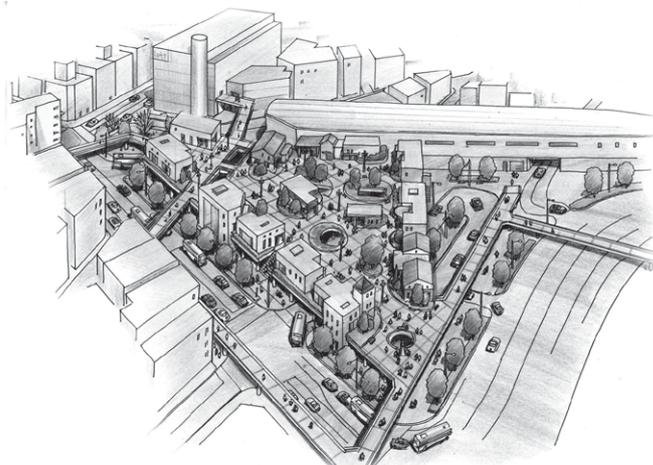
このたび、公募への応募でピカピカの新人教員になり、都市環境デザイン工学科都市デザイン研究室を開設させて頂きました。出身は美術系大学の建築という変わり種ですが、大学院を出てからは全国及び中央の都市計画実務にずっと携わってきました。日本の都市が拡大していく時代、必要なモノを造ることに精一杯で、出来上がってきた都市は必ずしも美しいものではなかった、と思います。表題のうち「美しい」の説明は不要と思いますが、「ふさわしい」とは、気候条件、地勢、歴史・文化などその場所が持つ特性に適合していること、それが結果として個性となって見え、感じるものだと考えています。また都市デザインとは、姿形をデザインすることのみではなく、都市を構成しているさまざまな要素を適切に組み合わせ、あるいは関係づけ、作り上げていく総体を言うものだと考えています。

【都市デザインに関わる大学への期待】

未だ開設して数カ月のわが研究室ですので、実績もご紹介することも多くはありません。後に現状をご紹介するとして、都市デザインの観点からの大学への期待のようなものを考えてみました。景観法が制定されて後、良好な都市景観の形成についての関心はにわかに高まり、全国の自治体においてその取り組みが拡大しています。このことから都市デザインの専門家へのニーズは高まったと見ることもできる一方、都市景観に関する検討は産業としてそう規模の大きいものではないと見ることもできます。基本的に行政計画である景観形成計画等は、民間にその検討が委託される場合も多い一方で、厳しい財政状況の中、民間側から見て産業として魅力ある業務である場合とそうでない場合もあります。何より都市デザインといった分野は、なくてはならないものというより、あるとベターといった分野であることから、そのみで成立するものではなく、関連する都市整備の技術等とともにあるものだと考えます。このため、都市デザイン研究室における研究、とりわけ学生が取り組むべき学習分野は、景観・デザインということに過度に特化せず、都市整備の技術全般の習得といったことを目指すべきと考えています。

【研究室の状況、ゼミ生など】

できたばかりの研究室ですが、小金井の卒業研究ゼミには9名の4年生が籍を置き、毎週新米教師と議論を交わしています。都



販わいづくりに、交通施設の再整備、土地権利の整序など多くのことが必要

市環境デザイン工学科が小金井キャンパスから市ヶ谷田町キャンパスへ展開するという過渡期ですので、都市デザイン研究室も市ヶ谷田町と小金井それぞれあります。できたばかりですので部屋はがらんとしており、特に小金井は今年1年限りですので、年度末までがらんとしたままかもしれません。市ヶ谷田町では後期には3年生の工学ゼミナールが始まり、プレ・ゼミ生のようなことが市ヶ谷で始まるようです。来年度開設が決まったデザイン工学研究科に関しては、入学試験が始まりますが、わが研究室にも応募はあるようで、優秀な学生が入学してくれるものと期待しています。小金井の卒業研究ゼミ生、市ヶ谷のプレ・ゼミ生、来年の大学院生と順次体制が整っていき、デザインばかりではなく、都市整備全般に係わる技術と教養を持ち、その上でデザインや景観は任せておけ、といえる専門家を輩出していきたいと考えています。

今年の卒業研究は、「都市空間における禁煙」、「多摩ニュータウンの人口問題」、「大規模複合開発による地区の魅力向上要因」「総合設計制度がもたらす都市景観面への影響」など、都市の構成やその要因から、具体的な景観に関するものまで、当研究室で扱おうとするテーマの将来を示唆するようなものとなっています。

【都市デザイン研究室の行方は】

次第に形を整えつつ、目標とする「美しくふさわしい」まちづくりに関する研究と教育、特にその実現方策を含めた提案を発信していきたいと考えています。また、デザイン工学部として建築学科、システムデザイン学科とも連携を考えていくといった取り組みも念頭にあります。現時点では建築と都市環境、また広く文系学科と連携して継続的に活動されてきた、建築学科の陣内教授率いるエコ地域デザイン研究所のメンバーに加えて頂き、学科横断的な研究を開始しつつあります。都市デザイン研究室の構成員となるゼミ生、大学院生等についても、次第にこのエコ研の活動にも参加してもらおうと考えています。

以上のようにできたばかりの、右も左も分からない新米教員による「都市デザイン研究室」ではありますが、当学部の掲げる「ホリスティック・デザイン」の実現に向け、美しくふさわしいまちづくりについて、真摯に考えていきたいと思っています。新任のご挨拶とともに、OB諸氏のご支援、ご鞭撻をお願いするものであります。

橙社会(1959卒)クラス会の報告

卒業から50年!!

平成21年5月25、26日に箱根強羅「せせらぎ荘」で“橙社会”を開催しました。

橙社会は昭和34年(1959年)に建設工学科(土木専攻)を卒業した者達のクラス会で、3年生から土木専攻と建築専攻に分かれ、土木専攻は30数名の1クラスだけでした。当時の校舎は東京麻布三ノ橋にあって他の組織も同居した小さな建物でした。まだ、都電(路面電車)が縦横に走っている時代でしたが、一方で戦後の混乱時に一区切りがついて経済の高度成長が歩み始めた頃でもありました。

それから50年が経過し、その間幾度かクラス会を行ってまいりましたが、今回は卒業後50年という節目の記念クラス会となりました。在学当時大変お世話になった中島国明先生にもご参加して頂き10人という少々寂しい集まりでしたが、遠路四国、九州からも参加者がありなごやかに思い出を語り合い、話題の尽きない一夜を送ることができました。「次回はいつ?」なんて話もできましたが、まもなく後期高齢者になろうという一同、あまり期待せず喜寿(77歳)を目標にと大笑いするなかで散会しました。

草次淳一(1959年卒)



「外濠清掃活動」の報告

「法士会」は、創立50周年の記念事業として大学周辺のボランティア清掃を行いました。清掃箇所は、都市環境デザイン工学科が市ヶ谷田町校舎に本格的に展開することから、市ヶ谷キャンパスに面する外濠道路・公園を対象とし、5月23日(土)に22名のOBのほか、在校生38名、教員4名の計64名で実施しました。午前10時から2時間を掛けて清掃を行い、終了後は昼食と摂りながらOBと在校生で懇談しました。

当日は晴天で、二十四節気の「小満」、七十二侯の「蚕起食桑」、まさに陽気盛んで、万物が次第に成長して一定の大きさに達してくる様に在校生の姿が重なり、5月の風以上に新鮮な空気が満喫でき、心が洗われる一日でもありました。

野口博章
(1979年卒)



外濠清掃活動状況



集めたゴミと共に集合写真

第14回 社会工学セミナーの開催報告

皆様のお陰で、本年6月18日に第14回目の社会工学セミナーを迎えることができました。今回は、今年4月より専任教員として着任された高見公雄教授に、都市デザインや美しいまちづくりのノウハウ等、日頃の先生の活動に加えて、様々な四方山話も織り込みながら、今後の都市基盤整備や土地利用についての方向性についてお話して頂きました。今回は、現役の学生が30名、OBが10名という参加人数でした。

社会工学セミナーの役割として、基本はOBのスキルアップの場、意見・情報交換の場、OBと大学との交流の場であることに間違い無いと考えています。在校生や大学院生にとっては授業とは別に社会人の日常の実務とは何かを知る場とし、若手OB

にとっては自分の所属する会社を離れ、意見や情報交換の場として活用し有意義な場となってきております。現役の学生とOBとの繋がりも従来に比較し、深いものになってきております。

今後は、在校生や院生、女性OB(OG)、にも多く参加して頂き、より多くの意見、四方山話等ができるサロンの内容を考慮し、適時適切な話題を提供して行きたいと考えています。

例えば、最近の建設事業の入札形態は、プロポーザル、技術提案型、総合技術評価方式等と多様化が進んでいます。提案するにしても、評価項目がマンネリ化していると思う事はありませんか?

より良い提案を受け付けて評価する(評価

される)ことは当然ですが、「本当に組織として利益が出て実施できるのか?」という疑問を抱く方もいるのではと思います。発注者の立場、請負者の立場で認識すべきは、「現場」が物語る「事実」を各自が取得体験することかと思えます。実務に強い法政OBが集い、「ものづくり」の基本となる、「現場と事実」の知恵を共有すると、また違った世界が開けるのではと思います。皆さんの疑問「本当にそうなのか?」とか「やっぱり、そうだったんだ」との情報共有できる場とし、「面白い!」を目標に皆さんが集まれる社会工学セミナーを開催していきます。次回は10月中旬に開催する予定です。

社会工学セミナー担当理事
蛭川愛志(1984年卒)

学務課からのお知らせとお願い

土木工学科入学者の一級建築試験の受験資格について>

2003年度以前に工学部土木工学科に入学し、2004年度以降都市環境デザイン工学科として卒業した方は、実務経験2年以上で一級建築士試験に出願ができます。その際は右の点にご注意ください。

問い合わせ先:

法政大学 小金井事務部学務課 工学部
担当 浅野 広人(ASANO, Hiroto)
〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2
TEL 042-387-6033 FAX 042-387-6048
E-Mail: hiroto.asano.46@adm.hosei.ac.jp

- ・学校コード「999999」で申込むこと。
- ・大学発行の一級建築士試験受験専用の卒業証明書、成績証明書が必要です。

編集後記

土木同窓会が50歳となりました。50年前といえばテレビや洗濯機など電化製品が家庭一般に普及し始め、電化製品で生活水準が一気に向上しました。人類が誕生し気の遠くなるような年月の中、あっという間にITや携帯電話などこの50年の間の技術の進歩・発展は加速度を増し恐ろしささえ感じます。50年後の未来はどうなっているのでしょうか? 半世紀という年月の重さを考えさせられます。

気がつくと私も今年50歳。あれよ、あれよという間の半世紀でした。

法士会報編集委員
山川宏明(1984年卒)

法政大学 工学部同窓会 土木同窓会ホームページ

<http://133.25.196.100/joomla1508/-mainmenu-41/-mainmenu-47.html>